

自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース
(保健体育) / 木原 資裕

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

本年度より、中学校体育授業における武道必修化が実施される。徳島県教育委員会においても3年前より剣道研究委員会を設置しており、私自身、委員会発足当初より中学校体育教員とともに研究メンバーとして参加し、これまでに3枚の指導DVD作成・編集に携わって来ている。中学校での剣道指導の実態を見るにつけ、安全確保と用具管理に大きな問題点がある。

そこで、科研費申請においては、『ソフト剣道の開発と展開』をテーマに、打たれても痛くない竹刀の開発を考えている。私自身、これまで、剣道授業における試作用具やスポーツチャンバラの剣を用いた授業実践を日本武道学会で発表してきた。今回は、それをさらにすすめて、袋竹刀をベースにした竹刀開発と中学校での授業実践を構想している。

2. 点検・評価

10/23に職場復帰し、科研費申請書類の作成に取りかかった。『ソフト剣道の開発と展開』をテーマに申請したが、申請書類作成の時間が十分確保できず、不十分な内容となり、不採択であった。

その後、全国教育系大学剣道連盟の研究助成に応募し、10万円の研究助成を得た。4月末に本学に寄附予定である。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

保健体育コースにおいては、昨年度(2011)の入学生15名、今年度(2012)は20名であり、コースとしての定員充足の実績を十分上げてきているように思える。私自身、昨年度より大学院入試委員として、新たな大学訪問を行っているし、研究および剣道等でのネットワークを用いて、大学院入学希望者の有無についての情報収集に努め、4名の大学院入学者確保にかかわった。今年度も引き続き、大学訪問と大学院入学希望者の有無について積極的な情報収集を行い、今年度以上の入学者確保に貢献したいと考えている。

2. 点検・評価

2013年4月には保健体育コースとして、14名の入学者を得た。内、3名には私が個人的に関係している。私が所属している学会等での継続した広報活動が徐々に成果に結びついているものと思われる。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ①学生が自分の「得意な事」を見つけ、深めていけるよう、授業、修士・卒業論文の指導にあたる。
- ②剣道部顧問・監督として、剣道部の活動に積極的に参加し、学生・院生の心身鍛練の強化に当たる。
- ③学生の進路、悩み等の相談に応じられるコミュニケーションをとれる機会を多くもつようにする。

2. 点検・評価

- ①③に関して、ゼミ生と会食をともにし、勉学以外の相談に応じ、ゼミ生の人間性を理解する機会とした。
- ②に関しては、徳島県学生剣道選手権眉山杯大会において、男子の部で優勝・2位・3位を鳴教大剣道部が占め、女子においても2位となった。

II-2. 研究

1. 目標・計画

年間1回の学会発表ができるよう研究成果をまとめ、さらに、論文として年間1本の全国レベル研究誌に投稿する。

2. 点検・評価

学会発表は連名を含め、6本行っている。論文としても、鳴門教育大学授業実践学研究会に「教育実習生が行う剣道授業の検討—剣道初心者の剣道授業を中心に—」を投稿、印刷中となっている。全国レベルの研究誌へは、現在、投稿中である。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

- ①委員として学内の各種会議に出席し、職務を遂行する。
- ②コース会議、部会議、教授会、全学集会へ公務が重複する以外は出席する。
- ③大学運営に関する問題点・意見・発案を各種委員等で積極的に提言する。

2. 点検・評価

長期入院より職場復帰してからは、①②③ともに積極的に発言し、職務を遂行した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

- ①附属学校での研究会および附属学校との懇談会に積極的に参加し、相互の教育・研究の情報交換、討議を行い、その発展に努める。
- ②教育支援講師、アドバイザーなどとして、積極的に学校現場、地域主催研修会等に出向き、指導・助言を行う。(社会貢献)

2. 点検・評価

- ①に関しては、附属中学校での教育実践フィールド研究のコース担当者として、その任に当たっている。また、附属での研究会にも積極的に参加している。
- ②公開講座「さわやか剣道教室」を開講し、小中学生22名に剣道指導を行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)